

# ともしび保育園



2021年3月1日 発行

## ひとりひとりが光の子

1月7日に発出された緊急事態宣言が延長されました。自粛疲れというワードがメディアで取り上げられていますが、この間の国民一人一人の努力もあり、毎日の新型コロナウイルスの新規感染者数は減少傾向に転じています。更にワクチンの投与が現実的なものとなってきた今、長い間暗闇の中にいた私たちの目の前に、一筋の「光」が差ししたようにも感じられます。まだまだ油断は禁物なことは、この数か月で経験済みですから、基本的な対策は怠ることなく、明るい未来を信じて、今できることに真摯に取り組んでいきたいと思えます。



「光」と言えば、2月の聖句は「わたしは世の光である」(ヨハネによる福音書8章12節)でした。そして3月の聖句は「光の子として歩みなさい」(エフェソの信徒への手紙5章8節)で、これは卒園式でも唱和される言葉です。



キリスト教の世界観では、この世ははじめ暗闇で覆い尽くされていて、神様が「光あれ」言われて初めて光(昼)と闇(夜)ができ、第一日目となった、とされています。人々が神様の愛を忘れ、希望を失くしていた時、神様が自らの愛を人々に伝えるためこの世に遣わしたのがイエス様ですから、イエス様が自らを“世を照らす光”と言うことは理解しやすいと思えます。

そこで3月の聖句です。この言葉を残したのはパウロという人物ですが、その背景にあるのは「あなたがたは世の光である」(マタイによる福音書5章14節)というイエス様の言葉です。ここでポイントとなるのは“あなたたちも私のように光になりなさい”と言っているわけではなく“光である”と言い切っているところです。

それでは人間には闇の部分がないのかというと、もちろんそんなことはありません。人間とは元々神様に背きやすい存在であり、多くの闇を抱え罪を背負って生きています。それでもイエス様はそんなことは百も承知で「大丈夫、神様の愛を知っているあなたたちは、みんな光を持っているよ」と私たちに励ましてくださっています。

生きていく中で人はさまざまな困難に直面しますが、そんな時こそ自分の中にある神様の愛、“光”を信じて歩んでいきたいと思えます。

最後になりましたが、今年度もさまざまな場面におきまして、園の運営にご協力いただきましたことを心から感謝いたします。

ありがとうございました。

園長 山田 英

